

会 議 要 旨 書

会議名	第 21 期三鷹市立図書館協議会 第 9 回定例会
日 時	令和 4 年 7 月 21 日（木）午後 2 時
場 所	三鷹市立三鷹図書館（本館）第 1 集会室
出席委員 （10 人）	山下政一 小谷奈保子 松田秀穂 倉田清子 間部豊 大塚敦子 松本直樹 土屋菜々 横山和男 梅林愛子（敬称略）
欠席委員 （2 人）	並木茂男 福島健明
行政職員 （5 人）	三鷹市立三鷹図書館館長 大地好行 図書サービス係長 池上真理子 管理係長 榛澤孝 管理係主事 岩崎祐美
会議の公開・ 非公開	公開
傍聴人数	0 人
<p>【議事】</p> <p>1 前回の協議内容の確認について 後日送付。</p> <p>2 行政報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大地館長 配付資料「図書館協議会行政実績・予定報告（6月17日～9月14日）」に沿って説明 ・大地館長 配付資料「月曜祝日開館指標」に沿って説明 ・A 委員 広報はどの程度行ったのか。 ・大地館長 三鷹市の広報の 1 面、図書館 HP、メールマガジンで行った。翌日の休館日にもほぼ問い合わせがなかったので、広報の 1 面に掲載されたことは、効果がすごく大きかった。18 日は、結果として思ったほど実績は出なかった。9 月の試行の結果を確認の上今後の方針を決定する。 ・A 委員 月曜日休館という思い込みがあるので、知らない人が多かったのではないか。結構前から広報とかでアピールしとけばよかったと思う。 ・大地館長 以前から図書館カレンダーで掲示していた。月曜祝日以外の祝日は現在年始を除き開館している。月曜日は休館日のため、月曜に祝日が当たった場合休館していた。それについてご意見があったため、今回対応したものである。 ・B 委員 9 月は 19 日敬老の日が祝日開館になるということか。 ・大地館長 おみこみのとおりです。 ・C 委員 広報みたかの 1 面に載ったのは、電子書籍が掲載された号か。 ・大地館長 同じ号である。 ・C 委員 電子書籍は反響があって新しい申込が非常に多かったと聞いている。 	

- ・大地館長 広報紙の1面は効果的だと認識した。休館日は直通電話を不通にしているが、開館日と同じ状態にして、市民からご意見が来たら説明するつもりでいたが、本館ではなかった。ハッピーマンデー開館の実績は想定より低かったが、臨時休館をやめれば一定の利用は見込めると思う。
- ・D委員 直営だとなかなか開館するのは難しい。職員の体制等もあると思う。
- ・大地館長 この後夜間開館の試行もあるので、次回合わせて報告する。
- ・C委員 西部図書館だけは祝日開館をした結果実績が増えている。
- ・大地館長 館によって違いがあった。西部図書館と南部図書館は指標を上回った。
- ・C委員 利用者が増加した館の分析をした方がいい。
- ・E委員 特定の館だけ祝日開館することはできないか。
- ・大地館長 職員の勤務の公平性の問題も出てくるので難しい。
- ・F委員 ハッピーマンデーの日にすべての図書館を回ったが、西部図書館や南部図書館は、駅前図書館や本館に比べてコンパクトなので、入り口に1つチラシがあるだけで、すごく目に入る。
- ・H委員 閉館時間延長の広報はどのように行っているか。
- ・大地館長 電子書籍と一緒に広報みたかにも掲載している。
- ・E委員 何か所もチラシを貼るより、出入りに休館のお知らせが大きく添付してあるほうが効果的ではないか。
- ・大地館長 E委員のおっしゃるとおりそれぐらいのほうに分かりやすいと思う。大きな字でわかりやすい端的な広報を行っていききたい。

3 今期の提言にかかる検討について

- ・D委員 配付資料「第21期 三鷹市立図書館協議会提言に向けて」に沿って説明
- ・D委員 館同士の購入資料の調整は、選書会で行わないのか。
- ・大地館長 選書会では館同士の調整を行っている。ただ選書会のあり方については、テーマになっている。
- ・D委員 図書館の資料を返却されたところに排架するのはどうか。
- ・大地館長 今後検討していく余地がある。
- ・G委員 三鷹市は幸い武蔵野市や調布市も近くにあって、広域のネットワークと考えれば、相当多くの資料にアクセスできる恵まれた環境にある。三鷹市だけにとどまらず、もっと大きなネットワークの中に入っていればいいという考え方もあるのではないか。
- ・大地館長 近隣でバラエティに富んだ資料を読めるため市民の読書環境としてはいいと思うが、やはり市の図書館としての役割を全うする必要がある。
- ・C委員 三鷹市の収集方針はどうなっているか。
- ・大地館長 基本的に収集方針では、「市民に役立つ図書館」に資する形で、本を選ぶことになっている。必要な本は選書会で決定するということになっている。
- ・C委員 各館ごとの蔵書形成を考えるのではなくて、市全体の蔵書形成を考えるのが収集方針。その辺をもう少し整理したらいいのではないか。
- ・大地館長 大前提として、市全体として蔵書を考えることになっている。
- ・G委員 コロナになってから予約をされる方が増えたのではないか。図書館の利用の仕方も少し

変わってきたのではないか。図書館は予約した本を取りに来るところという考えの人も増えたのではないか。

・大地館長 結局有効登録者数自体は減っている。

・G 委員 利用者を増やす観点からすると、それなりに資料がないと厳しい。

・H 委員 図書館の蔵書から外れてしまうが、三鷹の図書館に行くと今人気の本は待ちだけれども、コミュニティセンター図書室に行けば案外簡単に借りられる。コミュニティセンターの図書室には人気の複本が比較的そろっているため図書館を利用する人が使い分けてくれてもいいのかなと思う。図書館の中でニーズを解決しようとする予算の限界があるので、図書室を、市民がうまく使い分ければいいのかなと思う。

・D 委員 システムを共通化する方法もあるし、ご案内だけでする方法もある。どのくらいの連携がいいのか。

・A 委員 井の頭コミュニティセンター図書室は連携しているが、1年間新着図書は井の頭コミュニティセンター図書室でしか借りられない。

・大地館長 利用者の中には「井の頭コミュニティセンターに行かないと予約できない、あるいは借りられない本があるのがおかしい。」というご意見はある。図書館からシステム連携していない各コミュニティセンター図書室を紹介できないのは、各コミュニティセンターの蔵書が図書館ではわからないからである。

・大地館長 コミュニティセンター図書室との連携はずっとテーマとしてあるが、連携する方法がなかなか難しい。大沢コミュニティセンターと連雀コミュニティセンターとは資料の貸出に関する協定があるが、事業実績はほぼない。

・C 委員 コミュニティセンター図書室の蔵書目録を図書館に置けないのか。

・大地館長 蔵書目録が作ってあって、いただけるものであれば、置いておくことはできる。

・C 委員 利用者はどうやって井の頭コミュニティセンター図書室に本があるのかわかるのか。

・大地館長 井の頭コミュニティセンター図書室は図書館とシステム上連携しているため蔵書が分かる。他の図書室とは連携していないので、何があるかわからない。

・H 委員 コミュニティセンター図書室で PC を見て何か検索をしていたので、何かしらあるのではないか。

・D 委員 カーリルという仕組みがあって、そこに OPAC を公開していれば、利用者が一括で検索できる。ただその前に各コミュニティセンター図書室が蔵書をデータ化して公開する必要がある。公開してくれれば、別に三鷹の図書館とシステムを統合しなくてもできる。実際公民館とかやっているところもある。

・大地館長 蔵書のデータを公開してコミュニティセンター図書室に本があることが分かったとしても、大沢の人が大沢コミュニティセンター図書室に行くのは行きやすい。上連雀の人が借りに行こうとするとすごくハードルが高い。図書館で予約して借りるのとは違う。

・A 委員 配送サービスが付くととても使いやすくなる。

・大地館長 全体として本が管理されていないと流通は難しい。一元的に管理できると良い。市民全体としてはよいが地元の人が本を借りられなくなる不都合がある。

・F 委員 前回の図書館協議会で館長が貸本屋のようにはなりたくないと言っていたが、どうい

意味か。

・大地館長 無料貸本屋論というのがありまして、図書館は基本的に本を貸すだけやっていたらいいという考え方があるが、本を貸すだけではなく、本をご紹介したり、調べ物をするのに力を貸したり、付随していろいろな知識を広げていく、それこそ市民の役に立つという意味でいろいろな付帯する機能がある。ただ本を貸すだけでしたら本当に簡単でして、議論していた複本の話では、本を貸すだけであれば複本が何冊あっても構わないと思う。

・F 委員 図書館協議会に参加している理由は立派な貸本屋になってもらって結構だと思っているからだ。貸本屋にならないというのなら、館長の頭で考えている本を選書会で購入してもらおうというのは押し付けがましいのではないか。

・大地館長 だから私が読めという本を皆様に読めというつもりはない。そうではなくて読みたい本を読んでいただいて構わないと思っている。皆様に読んでもらうために本揃えていますし、利用者の役に立つと思って、蔵書構成をしている。ただ利用者に言われるままに買っているわけではない。本のライフサイクルを管理しているのが私たちの仕事であって、その中で借りられるものと借りられないものが出てくるが、最終的には利用者の役に立つことを私は求めている。

・D 委員 無料貸本屋というのは、今から 20 年位前にベストセラーの大量購入というのが社会的に話題となった。文芸出版の著作者がそれは問題ではないかということとその時にこの言葉がよく使われた。館長が言われたように、ベストセラーの大量購入は本来の図書館の在り方とは少し違うという文脈で使われた。

4 その他

8月7日（日）～9月3日（土） みるみる三鷹 放映予定

次回は令和4年9月22日（木）午後2時から三鷹図書館第一集会室で開催